



いながき

3月議会活動報告

爽やかに 中原市長登場！

～新たなまちづくりへ期待～



いとう

3月23日(月)議会開会日、中原氏は市長就任の挨拶の中で、『私が何をやるかは明白。三つの力(市民・議会・行政)を結集し、吉川を大人の都市にしていく。与えられた4年間、縦横無尽に動き、皆様の力を結集してまちづくりを進めて行く』また、『組織の中での情報を透明化し、責任の所在を明らかにする』と、決意を表明しました。

27年度の吉川市一般会計当初予算は、前年度比3,7%増の194億94百万円。国民健康保険など6つの特別会計当初予算は前年度比6.1%増の138億2千5百万円余。総額では4.7%増の333億1千9百万円の規模に。『骨格予算』のため市長の市政方針演説は行われず、それに伴い代表質問は中止。なぜか一般質問もなかった。提出された議案及び予算内容の各分野にわたり質問。質問を通じ、選挙での公約(主張)との関係も明らかにしました。

<水道水フロリデーの啓発活動は中止！> 前市長は、『任期中に実施することは考えていない』と言いながら、これまでフロリデー啓発・推進活動を市として行ってきました。中原市長は、『今後は予算化せず市職員の派遣も一切行わない』ことを明言。すでに保健センターの試飲給水器は撤去。各種イベントでの試飲体験、まちづくり出前講座等での啓発活動はすべて中止になります。また、吉川市フロリデー推進協議会(市職員が顧問・会員)からも脱退することになりました。

<産婦人科問題、解決へ向け努力> 未解決の、『区域外接種』と『子宮がん検診』の課題について市長は、『市の保健事業は、多くの市民が確実に受診できることが何より重要。その上で、吉川松伏医師会との信頼関係を基本にしながら構築していきたい。現在、医師会にご理解いただけるよう努めており、丁寧に進めたい』とした。ワクチン接種問題を正常化し、妊産婦へしわ寄せの出る施策はとらないと受け止めました。

<「救命士暴行被害届の取下げ」前市長が指示> 救急活動中に暴行を受けた救急救命士の被害届取下げは、戸張前管理者(市長)の指示によることが、3月31日開催の吉川松伏消防組合議会で明らかになりました。市長は副市長立会いの下、当時の隊員・関係者に聞き取り調査を行い、当時の消防長が、『被害届を取り下げろ』との指示があったことを認めた。現消防長もそれを認め、昨年7月定例会での発言を取消し謝罪した。戸張前市長は指示していないと主張。(詳細はP3を参照)

<「マルサン問題」進展せず> スーパー「マルサン」による騒音・振動・悪臭、交通の渋滞等、周辺環境への影響は抜本的な改善が見られず、周辺住民の苦しみは続いています。吉川市の騒音調査でも騒音規制基準を上回っており、弁当・総菜の製造に伴う揚げ油の悪臭も続いています。住民の生活に多大な迷惑と負担を掛けているにも関わらず、住民との話し合いにも応ぜず、無視し続けています。「マルサン」の誠実な対応と市の強力な指導を強く求めています。(いながき記)

いながき・いとうの 3月議会報告 どなたでも

場所 おあしすセミナールーム
日時 4月11日(土)
時間 午前10時～午前12時

いながき茂行 栄町782番地1C-1101 TEL&FAX 983-1628
Eメール iimachi.yoshikawa@gmail.com
いとう 正勝 きよみ野2-8-2 TEL&FAX 983-1117
Eメール itoh.m-y.runesansu@nifty.com

*これまでの議会活動報告は、いながき茂行公式ホームページでご覧いただけます。ブログは毎週土曜日更新 <http://www.inagaki-s.com>

27年度予算(骨格予算) と主な審議内容 いながき茂行

3月議会で提案された平成27年度当初予算は、いわゆる「骨格予算」となりました。

本来の予算は、その年度の全ての歳入・歳出で編成されます。しかし、市長選挙が3月議会直前で、かつ首長が交代したことから、予算と連動した政策的な事業等がまとまっていません。したがって、扶助費や人件費、公債費等の義務的経費や継続的事業を中心とした「骨格予算」となりました。

新規事業や政策的経費等の肉付けされた予算は、6月議会または臨時議会が開かれれば、そこで提案されます。

今議会では、中原市長の、『27年度施政方針』は示されず、それに伴う「代表質問」はありませんでした。

主な新規・拡充事業

骨格予算の例外として計上され

た主な事業は、子ども・子育て支援新制度による小規模保育や一時預かり等。生活困窮者子どもの学習支援。学童保育は、小学3年生までから6年生まで拡大し、土曜の保育時間も延長されます。当初予算が昨年より上回ったのは、学校給食センターPFI施設の整備等に15億5千万円が計上されたため。

新庁舎建設計画の見直し

昨年7月の見直しでは、資材単価や労務費の高騰により、建設費総額が52億4千万円に大幅アップ。実施設計の中でコスト削減に努めるとした見直しが終了。総額で48億6千9百万円。建物本体が45億7千9百万、外構他で2億9千万円。

プロムナードのひさしを縮小、屋上緑化、付属棟、外装ガラスの見直し等で圧縮を図った。

市長は、新庁舎建設の必要性を認め、早期に結論を出すとしながら、市民の意見を聞いていくとした。東洋ゴム問題も工期間に影響を与えることに。

幼稚園と保育所利用者の負担額が決定

子ども・子育て支援法に基づく幼稚園と保育所の利用者負担額が決まりました。保育所の階層区分について自民より修正案(8→18階層)が出され、自民・公明と共産の賛成で可決。低所得者と多子世帯への負担軽減を図るとの主張でしたが、対象者数や影響額の算出もせずに提案されました。

第6期介護保険料は4731円に

市負担額の他市との比較、支援法の趣旨、全体との整合性等からみて反対としました。

第6期介護保険事業計画がスタート。今年度からの保険料基準月額(第5段階)は、4731円(3.2%アップ)となりました。保険料を抑えるため、準備基金の2億4千7百万円を投入し、431円を減額しました。

介護保険法の改正に伴い、介護予防給付の訪問介護と通所介護が市の支援事業になり多様化、29年4月から実施。この他、特養の入所基準が原則、要介護3以上となりました。

3月議会は、3月23日、30日まで。23議案を審議し、全議案を可決(保育所利用者負担額で修正)。報告は、専決処分事項の承認。市道の路線認定と廃止について。議案は、条例の改正及び26年一般会計・特別会計の補正予算、27年度一般会計・特別会計予算。

議案審議

条例の一部改正は、介護福祉総合条例の一部を改正する条例、指定地域密着型サービスの事業の人員、設備及び運営に関する基準を定める条例。地域包括支援センターの人員に関する条例、特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業の利用者負担等に関する条例等。

行政報告 26年度吉川市職員採用試験の結果について。20名の採用を決定。一般職17名、保健師2名、栄養士1名の計20名。受験者は、428名でした。

顧問弁護士の交代

吉川市の顧問弁護士を務めていた真木吉夫氏の交代が決まった。真木氏は2014年9月30日、日本弁護士連合会から『業務停止一カ月』の懲戒処分を受けました。処分の理由は、顧問先から借りた800万円を期日までに返さなかったため、貸金返還請求訴訟を起こされ、請求容認の判決後も、半年にわたって返済せず、弁護士法56条等により処分となった。また、2012年10月にも、預り金を使い込み、『戒告』を受けており、2回目の処分。後任の弁護士は未定。

告訴取り下げは 前市長の指示で

いとう 正勝

3月31日。吉川・松伏消防議会。一般質問の冒頭で、消防管理者としての心構えを問うとともに「救急車暴行事件」について、事実関係をすみやかに明らかにし、ケジメをつけて出直しをはかるよう求めました。

救急車暴行事件

中原市長(管理者)は事件を重く受け止め、就任直後から緊急に調査を進めた。その結果「告訴取り下げは『当時のトップ、前吉川市長の指示によるもの』であることが明らかになった。」と慎重に文書を読み上げ、次のように報告しました。

中原市長が事情聴取 真実明らかに

これは、「椎葉副市長立会いのもとに、当時と現在の消防長、幹部や関係者数人を呼んで個別に聴取して調査した結果判明したもの」と説明。被害届け告訴の取り下げは、「前市長(前管理者)が指示。これにもとづいて当時の消防長らが暴行を受けた救命士の了解をとり行われた。」今後はこのような事のないようにきちんとした組織運営、管理につとめると述べました。

根深い隠ぺい体質 明快なルール作りを

告訴取り下げは仲間内の論理。私益優先で決して正当化できる行為ではありません。この事件について組織内での報告は一切なく、現場職員は黙したまま。トップの意向には、何事も「逆らわず従う」のが組織の土壌。消防議会で酒井消防長は調査や前任者との引継ぎも不十分なまま答弁する結果になったと陳謝の姿勢を見せま

したが、この「組織的隠ぺい工作」の体質を改めるには透明性のある明快なルールづくりが必要。そのことを指摘しました。

救命行為への影響

検証し報告すること

「心肺停止の傷病者」について。適切な応急処置で11%余が蘇生しているとの報告もあります。

今回の妨害行為は救命の作業と処置にどんな影響を与えたのか。一刻を争う救急現場での悪質きわまる妨害。その影響についても検証する責務があると指摘し、報告を求めました。

▽事実関係の調査は第1段階
▽原因の究明▽妨害事件の影響
▽組織内の問題点とルール化▽人事を含め責任あるケジメ▽内外への公表。新市長・管理者の手腕を問う
場面が続きます。



「ツキ」

人の世はめぐりあわせ。幸運もあれば悪運も。禍福も変転。

▽今回の事件。加害者は前市長の後援者の一族。有力政治家や庁内の大幹部も身内。じつ懇の間柄で選挙も迫る。情も絡んでやむなく裏工作。よもや暗転するとはー。

▽消防議会での追及。悪戦苦闘の一年余。不祥事の事実確認の調査は途中から「かん口令」も敷かれ、消防議会では管理者に合わせ、消防長が何度も「偽りの答弁」。修羅場の経験や「記者魂」がなければ厚い壁の前で立ち往生。隠ぺいはそのまま闇に包まれ沈殿へー。

▽新市長の登場。しがらみのない立場でクールに迅速に精査。「告訴取り下げは前市長の指示によるもの」ときっぱり。選挙に負けていればどんな展開になっていたのか。組織を挙げてもみ消し。多数の横暴で抑え込み。ドロドロもつと陰湿に。新市長の声は天から降ってきた清涼剤。これは市民の眼と選択が生み出したもの。

▽吉川の由来は群生する「葎(よし)」から。この葎は芦とも呼ばれる。イネ科の同じ植物。善しと悪し。表裏一体。紙一重。ままたらぬ世。「ツキ」は大事にしたいもの。(いとう)



吉川の将来設計を描く ～総合戦略の作成に着手～



<地方創生。吉川版総合戦略>

行政は継続し、政治に小休止なし。新市長の前には課題が山積み。国は地方活性化の方策として、各自治体ごとに「総合戦略」を1年以内にまとめるよう誘導。地方創生の支援交付金を受けるための条件に。新年度予算にも検討委員会設置などの費用を計上。将来の人口動向を見据え、どんなまちづくりをめざすのか。子育てや高齢社会にどう向き合うのか。英知の結集、リーダーシップも問われることに。

<「地域包括ケアシステム」の構築>

10年後。団塊の世代が75歳以上に。急速な高齢社会を乗り切るにはそれぞれの地域で、医療、介護、行政、地域が一体となって見守るシステム。支えるシステムが必要。国は遅くとも2年以内に各地でこのシステムを始動させることを求めている。関係の条例を提出。生きたシステムを構築し軌道に乗せる一。ご一緒に取り組むテーマです。

<プレミアム商品券 30%の割り増しで>

地方創生や景気振興の一環として国は新交付金(3千8百億円余)を用意。吉川には国と県から9千6百万円が交付。吉川では周辺自治体の取り組みも参考に「割り増し付き商品券」の発行を計画。1万円で1万3千円分の商品を購入できる30%のプレミアム商品券を7月メドに発行する予定。市内での購入を条件に。どう売り出し、配分するのか。効果や公平性。対象商品、低所得者対策など商工会とも連携して検討中。※アイデアも寄せてください。

<学童保育 4年生以上は87人に>

新年度から学童保育は4年生以上も対象に。事前のアンケート調査では150人をこえるのではと想定されたが、実数は87人に(4月1日)。4年生が73人5年生14人。6年生は希望者なし。支援要員もこれに合わせ8人の増加に。保育所の「待機児童」は82人(4月1日)。美南駅前マンション脇に開園予定の認可外民間保育所は「定員 80人」この秋に。美南地区には新たに定員90人の保育所が28年4月に開園を予定。「しまむら」のちかくに用地確保済みとのこと。独自取材の情報追加。

<駅前に投票所の設置を>

今回の市長選挙の投票率、48.7%。前回より大幅にアップしたが、市民の半数以上が棄権。選挙権は2年後18歳からに。若者をはじめ市民の権利行使に便宜をはかる工夫をと要望。吉川駅前に期日前投票所を早期に設置するよう、さらに実現を働きかけます。

編集後記

4月1日は、「エイプリルフール」。昔の子ども達は、「ぎっぴき、美空ひばりが歩いていった」とか「ぞうしよう、100万円当たった」等、たわいのないウソを言って喜んでいました。

そんな4月1日(水)、衝撃のニュースが伝えられた。

朝日新聞と埼玉新聞に、3月31日に開催された吉川松伏消防組合議会で、救命士殴打事件の真実が明らかにされた。被害届取下げを、前吉川市長が指示したという。

これまで、自分は指示していない。事後報告で聞いた。憶測で言ってもらった。困る」と言っていた戸張前管理者の主張が偽りであったことが判明した。

中原市長が、当時の隊員や消防長に確認した結果、総合としての指揮は強固で、指揮命令が飛び越えることはなく、前市長の指示で被害届をとりさげた」とことを認めた。

ウソは必ずばれる。一人のウソは墓場まで持って行けるかも知れないが、多数が関わったウソは必ず発覚する。しかも、もっとも悪いタイミングで。お金や女性関係、人を陥れたことやカッコつけたこと等。

その時、人は「ウソ!」と叫ぶ。吉川市議会でも、「消防」と言いつつとたん発言を停止させてきた方々は、一体なにを守ろうとしてきたのか。どんな体制を、どのような方々を守ろうとされていたのでしょうか。

昨年の7月、消防議会の傍聴にいらした自民・公明・共産党の議員が、憶測で言っている」と声高に言い放って退室しました。どう市民に顔を向け、どう弁明されるのでしょうか。